

背景

平成28年度予定額169億円(平成27年度予算額169億円)

- ◆ ナノテク・物質・材料科学技術は、我が国が強みを有する分野として、基幹産業(自動車、エレクトロニクス等)をはじめ、あらゆる産業の技術革新を支える、我が国の成長及び国際競争力の源泉。
- ◆ しかし、近年、先進国に加えて、中国をはじめとする新興国が戦略的な資金投資を行い、国際競争が激化。
- ◆ 世界各国が鎬を削る中、我が国のこれまでの技術的・人的ポテンシャルを最大限に活用し、政府一丸で巻き返しを図る必要。

◆希少元素を用いない革新的な代替材料の創製

元素戦略プロジェクト

20億円(20億円)

我が国の資源制約を克服し、産業競争力を強化するため、レアアース等の希少元素を用いない革新的な代替材料を創製。

※「元素戦略」:物質・材料の特性・機能を定める元素の役割を解明し利用する観点から材料の創成につなげる研究。



・材料領域(拠点設置機関):

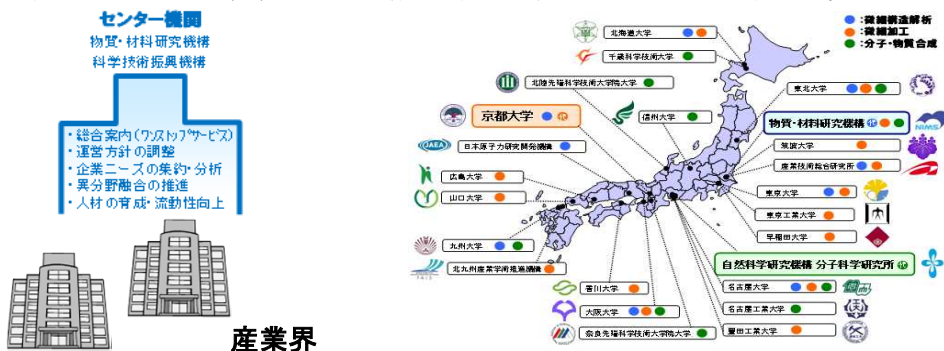
- ①磁石材料 (物質・材料研究機構)
- ②触媒・電池材料(京都大学)
- ③電子材料(東京工業大学)
- ④構造材料(京都大学)

◆最先端装置の共有化による研究基盤の強化

ナノテクノロジープラットフォーム

17億円(17億円)

ナノテクノロジーに関する最先端の研究設備とその活用のノウハウを有する機関が協力して、全国的な共用体制を構築することにより、産学官の利用者に対し、最先端設備の利用機会と高度な技術支援を提供。



◆産学官協働によるナノテク研究開発拠点の形成

東北発 素材技術先導プロジェクト

8億円(8億円)

東北地方の大学や製造業が強みを有するナノテク・材料分野において、産学官協働によるナノテク研究開発拠点を形成。世界最先端の技術を活用した先端材料を開発し、震災からの復興と素材産業の発展を牽引。

◆未来社会を志向した新たな材料開発

統合型材料開発プロジェクト

3億円(再編)

ナノ材料科学環境拠点 (GREEN) において、エネルギーフローに関わる一連の材料について、材料創製、計算科学及び先端計測の融合した研究開発を推進すると共に、未来社会を変え得る材料技術を、全体を俯瞰したニーズとシーズの科学的な解析や統合により検討する場を構築し、研究開発と適切な目標設定のための技術アセスメントの相互循環を図る。

◆物質・材料研究の中核的機関

(独)物質・材料研究機構

運営費交付金等 120億円(119億円)



物質・材料分野における世界トップレベルの研究機関として、全国の大学等と緊密に連携しつつ、物質・材料科学技術に関する基礎研究及び基盤的研究開発等の業務を総合的に実施。

特に、平成28年度は、次期中長期目標・計画期間の開始を踏まえ、研究開発成果の最大化へ向けた取組を強化。

